

尼崎市立園田小学校 平成30年度 学校評価

- 1 学校教育目標 「命を大切に、自ら学び、豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる子どもの育成をめざす」
- 2 研究テーマ 「自ら学び、主体的に取り組む子どもをめざして」～対話的学びを通して、一人ひとりの考えを深める授業づくり～
- 3 学校教育に関する重点取組(自己評価及び学校関係者評価)

自己評価

〔 ※ 自己評価の基準 4:十分達成できた 3:達成できた 2:取り組んでいるが、成果は十分でない 1:取組が不十分である 〕

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		自己評価
<p>(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する</p> <p>(2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する</p> <p>(3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する</p> <p>(4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</p>		2.8
取組とその成果	課題と改善策	
<p>(1) 学力テストの分析結果を全教員で共有し、学力向上アクションプランに基づいて、各学年それぞれの課題に応じて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善に取り組んだ。週2日・年間25回の放課後学習や毎日の基礎基本の時間の活用を学年で徹底すると共に、家庭学習計画表を有効に活用することにより、児童の自主的学習習慣の定着を図った。</p> <p>(2) 特別支援コーディネーターを中心に、特別な教育的支援を必要とする児童に関して全教職員で共通理解し、学校全体で支援する体制をとると共に、特支担当と交流学級担当が連携し、適切な指導や教育的支援を行い、主体的に生きる力の育成を図った。</p> <p>(3) 栄養教諭や養護教諭による食育の授業や保健指導により、食や健康な体づくりに対して関心を持つ児童が増え、望ましい生活習慣への意識が高まった。</p> <p>(4) 年間を通して、外遊びの奨励や長縄大会(あまっ子ジャンプチャレンジキング)、ジョキング大会などスポーツ活動の取り組みを進めた。児童が運動する楽しさを味わい、体育の授業で学んだ内容を普段の遊びに取り入れるなど、休み時間に外で遊ぶ児童が増えた。</p>	<p>(1) 基礎基本の時間に、足し算、引き算の百問テストなど、基本的な力がつくように継続的に取り組み、計算力が上がった。休み時間や放課後等を使って、学力的に厳しい児童に対して個別指導を充実させることができた。また、ジグソー学習など、新しい学習方法を実践し、児童が意欲的に取り組めた。</p> <p>(2) 支援員や通級指導の先生に週一度授業に入ってもらえるようになって、支援児童の学習に取り組む姿勢が目に見えて変わった。支援の必要な児童数に対して、支援員や通級指導の先生の勤務日が少ない。</p> <p>(3) 食育便りや行事食、ランチルームでの授業や出前授業など、低学年でも食に興味を持てるような取り組みができた。</p> <p>(4) さわやかジョキングやジョキング大会、あまっ子ジャンプなど様々な機会を通して、身体を動かすきっかけづくりができ、健やかな体づくりが図れた。</p>	
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		自己評価
<p>(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る</p> <p>(2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める</p> <p>(3) 学校いじめ防止基本方針に基づき、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努める</p> <p>(4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する</p>		2.7
取組とその成果	課題と改善策	
<p>(1) 毎学期児童アンケートを実施すると共に、教育相談期間を設定し、一人ひとりの児童の内面理解に努め、家庭とも連携して、基本的な生活習慣の確立と不登校の未然防止を図った。</p> <p>(2) 道徳の時間を軸とし、日常生活の中で、あいさつ・掃除・学習規律やルールを守ることなどの指導を学校全体で取り組み、規範意識を醸成した。また、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、生命尊重や人権意識を高め、互いを尊重し合う人間関係づくり、いじめのない学校づくりを推進した。</p> <p>(3) 毎学期実施する児童アンケートや毎月の生徒指導委員会(いじめ防止対策委員会)を通して、職員全体で児童理解を深めると共に、SC、SSW、ケース会議などを通して、不登校や問題行動、いじめ等の早期発見・早期対応ができた。</p> <p>(4) 社会的自立に必要な能力の育成を目指し、公民館と連携したキャリア教育や発達段階に応じた体験活動等を推進し、児童が社会とのつながりや社会における自分の役割を果たすことの意義を考えることができた。</p>	<p>(1) 生活習慣が整わない児童への声かけや支援を学年で取り組んだため、広い視野で児童を気にかけることができ、行き渋りが減り、不登校児童も徐々に来れるようになった。</p> <p>(2) 全体計画に沿って道徳の授業が実施できた。全体に幼い部分が多く、心ない言葉を使ったり、相手の気持ちを考えないような言動が多い。じっくりと児童に向き合い、諭し、自分自身や友だちを大切にできるような指導に努める。</p> <p>(3) 教育相談週間の設定により、児童理解やいじめの把握に積極的に取り組み、その後も継続して子どもと向き合う時間を確保し、話を聞くことができた。学校全体での共通理解を一層深め、関係機関との連携もさらに進めていく。</p> <p>(4) 学校・学級のために働くことの意識を高めるために、掃除当番、給食当番にめあてを持って取り組ませた。公民館と連携したキャリア教育では、様々な仕事に携わる方の生の声を聞くことができた。子どもたちが様々な職業に興味を持つようになった。</p>	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校づくりに取り組む		自己評価
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する		2.6
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 年7回、継続的に講師を招聘して全体研究会(授業研究及び事後研究会)を行うことにより、教員の実践的な指導力向上が図れた。また、マイスター教員を活用し、放課後自主研修会を発足し、若手教員の教師力向上のための学びの場となった。 (2) 昨年度から設置された地域学校協働本部の活動の一環として作成した「三平伝説」紙芝居をデジタル化し、4年生を対象に地域学習の授業で活用した。児童が地域に興味を持ち、愛着を持つきっかけとなった。また、HPや学校だより等で情報発信にも努め、地域とともにある開かれた学校づくりが推進できた。	(1) 終了予定時刻を告げてから会議を始めたり、PCを活用したペーパーレス会議など、校務の効率化が図れている。今後、会議の内容の精選や連絡黒板、職朝などの活用により、さらに会議を減らしたり、時間短縮や効率化を図る。 (2) 「三平伝説」の授業、地域の畑での芋掘り体験や農家の方の話を聞くなどの学習によって、子どもたちが地域を知り、興味を持つ良い機会になった。今後、地域人材の一層の活用を図るため、地域学校協働活動推進員を中心に、地域人材のデータベース作成を推進する。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		自己評価
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		2.9
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 地域の協力を得て、見守り隊など登下校時の安全確保の取組を充実させた。安全員、校門の施錠システム、防犯ネットに入る不審者情報のスマホ配信等の活用の他、本年度から、夏季休業中に不審者対応訓練を行い、校外での児童の安全確保に努めた。また、自転車教室の実施や地区活動など学年に応じた安全教育を通して、児童の危険予測・危機回避能力の育成が図れた。 (2) 年3回の避難訓練(地震・津波、火災)を様々な場面設定で行い、児童の防災意識が高まった。学校災害対応マニュアルの見直しと周知、アレルギー対応の周知徹底とEHP講習会、PTAと共催のAED講習会・救急救命講習会の実施など、教職員の危機管理能力の向上を図った。	(1) 全職員で通学路点検を実施し、危険箇所を把握できた。また、不審者対応訓練の実施により、職員の危機管理意識が高まった。集団登校に関しては、遅刻する児童も多く、高学年が班長・副班長として責任を持って役割を果たせていないという点が課題である。 (2) 新校舎に合わせた新しい避難経路等、いろいろな場合を想定した避難訓練の計画がなされており、より実際の訓練ができた。1.17の防災授業参観を毎年継続して行うことにより、保護者への啓発にもなっている。自然災害が頻繁に起こるようになり、学校として緊急時の対応をより詳細に考え、教職員が共通理解しておく必要がある。	

教育目標		自己評価
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		2.9
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 年度初めに、全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向け、各学年・各学級で教育目標を設定し、学年・学級を軸とした教育活動を展開した。 (2) 児童の発達段階に応じて学年目標を設定し、その目標達成に向け、学年単位でチームとして具体的な教育活動に取り組んだ。日頃からさまざまな場面で繰り返し目標を意識させ、教育目標の具現化と指導の充実を図った。	(1) 学年目標を掲示し常に目標を意識して学級経営に当たることで、子どもたちにも意識付いており、少しずつ目標に向けて成長していると感じられる。今後は、特に心の教育の充実に一層努める。 (2) 機会があるごとに学年目標に立ち返り指導できた。今後も振り返りをしっかりとて、教育目標の実現に向けてさらに取り組みを進める。	

研究テーマ		自己評価
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		2.8
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 研究テーマ「自ら学び、主体的に取り組む子どもをめざして～対話的学びを通して、一人ひとりの考えを深める授業づくり～」のもと、研究主任・研究推進委員会を中心に、研究テーマの達成に向け、組織的な教育活動が展開できた。学年研究を重ね教材理解を深め、子どもたちの確かな学びへとつなげることができた。 (2) 音読活動を継続し、言語活動における基礎・基本を習得させ、思考力・判断力・表現力を育成する授業研究を推進すると共に、対話的学習を取り入れ、主体的に一人ひとりが考えを深めていけるような指導を充実させた。	(1) 授業の中で、ペアワークやグループワークを意識的に取り入れており、子どもたちも話し合い活動に慣れてきている。どの教科でもすぐに取り組めるようになっている。 (2) 学年の実態に応じて話し合い、単元に取り組むことができた。継続して同じ先生に講師として指導助言いただいているので、他学年の研究や反省を自分の学年にも生かすことができた。	

学校関係者評価

※ 学校関係者評価の基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが、成果は十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	学校関係者評価
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・学力テストの結果が、全国に比べて低い。放課後学習や家庭学習など充実させ、改善が必要である。 ・外遊びが増えているのは、体力をつける意味でも良いことである。 ・学習支援員や通級指導の先生は、児童数に応じて配置してほしい。 ・4年生のジグソー学習の取り組みは、知識の活用にも有効と思われ、興味深い。</p>	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・昨年度よりは進んでいるが、「学校いじめ防止基本方針」の保護者への周知を、一層図ることが必要である。 ・SC、SSWとも連携し、ケース会議やいじめ防止対策委員会も活用して、いじめ防止対策を進めてほしい。 ・不登校は、個々様々な状況があり、根底にある原因が明確につかめない難しさもあるが、根気強く対処してほしい。 ・公民館と連携したキャリア教育では、活発に質問するなど、子どもたちは、とても興味を持って取り組んでいる。</p>	3.5
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・「三平伝説」の紙芝居は、地域からも注目され、大変良かった。地域にはまだまだたくさんの人材がいる。その人材を活用し、地域学校協働本部の活動をもっと広げたい。</p>	4.0
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・地震や台風などの災害時前後、通学路の安全確保や見守りに関して、学校からの指示や対応が的確で非常によかった。通学路の危険箇所の情報は、学校と地域が共有し、連携して対処していきたい。 ・登校班の仕組みはありがたいが、遅れて来る子(特に1年生)をいつまで待つのかなど、班長が対応に困る状況が見られる。 ・見守りネットで登下校の見守りを行っているメンバーが高齢化により減少している。協力を呼びかけるなど対策が必要である。</p>	4.0
<p>■教育目標</p> <p>・学校ホームページの閲覧回数が86,500回を超えている。園田小学校の教育活動への地域や保護者の関心の高さが分かる。引き続き、園田小学校が目標とする教育への取り組みを様々な形で、情報発信することを期待する。</p>	4.0
<p>■研究テーマ</p> <p>・音読活動は、子どもの自信につながり、良い取り組みと思う。 ・本を借りて帰る子どもは増えているが、新聞を読む習慣がない。全国学力テストには、新聞からも出題されている。読みやすい「子ども新聞」なども活用して、子どもに新聞を読む習慣をつけたい。</p>	4.0
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	学校関係者評価
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	A
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	A